

専攻科第13回講座（11月19日）

テーマは、

## 「渡り鳥と出会って知る、命、地域、地球、宇宙（2）」

この日の講座は、市川市行徳にある県立野鳥観察舎での講義と、隣接する鳥獣保護区での野鳥観察。この一帯は行徳近郊緑地特別保全地区に指定されており、千葉県の行徳鳥獣保護区と宮内庁新浜(しんはま)鴨場が隣接してある。世界にその名が知られた水鳥の生息地とかで、水門で東京湾とつながり特別に保全された緑地は、かつては東京湾の一部であったが、20～30年で樹木も伸び内陸性湿地として大都会の貴重な野鳥のサンクチュアリになっている。



安西 英明講師



ガイド役の野長瀬 雅樹氏

### 第13回講座

講師 安西 英明氏（日本野鳥の会主席研究員）

日時 平成26年11月19日（水）10:00～15:00

場所 県立行徳野鳥観察舎及び鳥獣保護区（市川市）

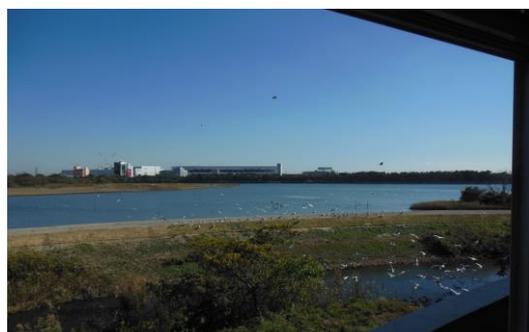
### 秋は鳥たちの旅の季節

午前、秋に旅する野鳥の話をお安西英明講師から聞いた。午後からは、観察舎を運営している認定NPO法人行徳野鳥観察舎友の会の野長瀬雅樹氏の案内で、特別保護区の中を歩きながら水鳥を観察した。沼や干潟の方にはユリカモメ、オオバン、カワウ、カンムリカイツブリ、タシギ、アオサギ、コガモ、ダイサギなどの水鳥を見かけたが、保護区の林に入ると、姿は見えないけれどもメジロ、モズ、ウグイスなど野鳥の声が聞えてきた。

野鳥にとって秋は旅の季節。来春の繁殖期を迎えるために冬を生き延びるべく、北から南へ、山から里へと移動中とのことだ。ツバメやホトトギスなどの夏鳥が南の国へ去り、カモやカモメの仲間などの冬鳥が北の国から渡ってきていた。



鳥獣保護区から野鳥観察舎の建物を写す。土手にはユリカモメが休んでいた。



観察舎に前の堤と水辺には餌を求めてカモメなど多くの鳥が来ていた。



行徳鳥獣保護区と宮内庁新浜鴨場。新浜で記録された野鳥は 281 種、日本産鳥類の約半分とか。(平成 17 年現在)



ハクチョウのはく製を背に、身振り、手振りで解説される安西講師。



野長瀬 雅樹氏の案内で保護区の野鳥を観察する。



この地にやってくる冬の水鳥。カモ、カイツブリ、アイザ、カモメなど。



1日に50~60種の鳥がやってくるとか。



淡水域の水鳥は、鴨類、アイザ類、カイツブリ類、カモメ類の鳥たち。

